

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	本校Webページで「学校の様子がよく分かる」と保護者の90%以上が答えている。	○「学校ブログ」では日頃の学校生活について情報発信し、本校教育活動の理解・周知を図る。また、閲覧しやすい機会を増やすなど環境づくりへ工夫・改善を図る。	A	A	A	・94.3%の保護者から肯定的な回答を得た。学校行事の活動を学校ブログで発信することで、学校生活の様子が解説付きで詳しくわかり、楽しめという意見があった。	・肯定的な意見の高さから、学校の教育活動を発信している効果が見受けられる。今後も様々な形で学校の教育活動を伝える機会を大事にしていきたい。 ・定期的に学校の敷地内で外部の方対象に、販売会を実施することで、さらに地域の方々に学校を知っていただき、高崎特の生徒の能力の高さの可能性を知ってもらう機会にはどうか。	・肯定的な意見が大半を占める一方で、「実際に見てみたいとわかりにくい」という意見も一部ある。閲覧する習慣のない方に対する効果的な手立てや工夫は必要である。
		管内の中学校・特別支援学校中学部の生徒、保護者、教職員に対して50回以上の説明の機会を設ける。		○積極的に学校訪問を実施し、見学会への参加や本校の特色ある教育活動に興味、関心をもってもらえるように、広報活動の工夫に努める。	A	A	A	・学校見学会2回、中学校への訪問等を55校、個別対応の見学会27回を実施することができた。見学会に併せて新たに作業体験会を企画し、効果的な広報活動につながった。	・矢中地区の公民館での展示については地域の方への理解に繋がるので今後も継続していただきたい。 ・一昨年度、昨年度に比べ、学校訪問をした中学校数が増加している。見学会への参加者数も増加しており、本校の教育活動に対する興味や関心を高めることができています。 ・学校見学会の中で体験活動を導入したことは生徒保護者の進路に対する理解を深める良い機会である。 ・年2回、学校見学会を実施したり、地域の中学校に出向いたり、適宜個別の対応をされており、認知度があがるよう尽力されている。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	「個別的教育支援計画」が有効に利用されている」と保護者・教員の95%以上が答えている。	○「個別的教育支援計画」を用いて、保護者と教員とで生徒についての共通理解を図り、面談や支援者会議などで利用することで、具体的に効果的な連携・協働を目指す。	B	B	B	・評価は前年度並みの約93%。生徒への共通理解や組織間の連携・協働については進められているものの、組織的で具体的な取組としては十分にできていないと思われる。	・保護者様は肯定的に受け止めていることが分かる。 ・時代の変化に伴い、生徒の家庭環境や特性も常に変化するため、新たな取り組みが求められます。今後も積極的に課題を発見し、改善に取り組むという建設的な意味で、B評価は適切であると考える。  ・教育効果を高めるためには、保護者と教員が目標と具体的な支援方法、役割分担を共通理解することが重要であり、引き続き取組の強化を図ることができるとよい	・説明責任や情報提供の重要性や方法について周知を図りつつ、面談などで「個別的教育支援計画」を分かりやすく簡潔に示すなどして、生徒についての共通理解につながる連携・協働となるよう組織的に取り組む。
		支援を行った地域の高等学校等から、90%以上の満足度を得ている。		○支援要請を受け速やかに日程調整を行い、相談内容や対象校の実態を踏まえた最適な支援スタイルで対応する。 ○共有した情報や具体的な支援方法をまとめた「相談記録」を作成し、適切な指導ができるよう対象校へ提供する。	A	A	A	・昨年度より多い件数の支援要請があった。学校が希望する日程で実施し、教材や資料を提供することで支援を具体的に提案するよう心掛けた。アンケートを実施したところ、回答のあった全ての学校から「大変参考になった」との回答を得た。	・実施校から高い満足度を得られていることから、十分に期待される役割を果たすことができている。 ・センター的な機能としての役割がさらに重要視されているように感じる。今後も様々な期間と連携しながら役割を果たしていただけるとよい。 ・要請に全面的に応え、かつ実施校から9割以上の高い満足度を得ていることは、まさに地域の特別支援センターとしての役割を十分に果たしていると言え、高く評価されていると考える。 ・支援要請が集中する時期においても、相談記録を速やかに作成し提出できるよう、体制を整える必要がある。 ・相談記録の活用状況や内容の適切性について、定期的に確認する必要性を感じている。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	情報提供の機会を設定し、参加者の90%以上から満足を得ている。	○高等学校等のニーズの把握に努め、「サポート通信」の発行、「個別相談会」「特別支援教育推進研修会」「学校見学会」の開催、などにより情報提供を行う。	A	B	B	・4月に「サポート通信」を発行し、特別支援教育の観点からの生徒理解について働き掛けた。 ・市や県の就労関係機関の要請を受け、高等学校における進路指導（就労）の現状と課題について情報提供を行った。	・「サポート通信」は情報提供手段の一つであり、単独での成果を定量的に評価することは難しいと考える。しかしながら、実施校の9割から高い評価を得ていることから、支援センターとしての役割は十分に果たされていると判断できる。  ・情報提供等を踏まえた研修会等の開催については、高等学校側のニーズを的確に把握し、そのニーズに適した情報提供機関を継続的に探索することが、今後の課題である。	・高等学校のニーズを把握すること、それに適した情報提供機関(者)を探すこと、参加を募りやすい開催時期の調整が課題である。

III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	『「個別の指導計画」に基づいた、きめ細かな指導・支援が行われている』と保護者の95%以上が答えている。	学習指導	○「個別の指導計画」を踏まえた面談や評価を行うなどして、計画に基づいた取組について報告したり、今後の見直しについて伝えるなどして、定期的に計画の見直しを図るようにする。	B	B	B	・肯定的評価は約94%と前年度並み。生徒の実態や特性に沿って指導や支援が適切に行われている評価といえる。一方で、在籍生だけでなく、今後入学する生徒も含めて、現時点での教育課程で多様性への対応についての不安がある様子。	・多くの保護者から、本学の指導に対して厚い信頼が寄せられていることが伺える。今後も、一人ひとりの特性に合わせた支援の更なる充実を期待している。全体への取り組みと個別対応のバランスを取り、効率的に進めることで、教員の負担軽減にも繋がること考えます。また各個人の個性に応じたきめ細かな指導・支援は、教員の負担を考慮すると、非常に困難であることも理解できる。保護者からの評価が高い現状を踏まえ、現在の取り組みを継続することも一つの選択肢であると考え。一方で、評価がB評価である点は、改めて検討する必要があると考えます。生徒一人ひとりに適した授業づくりに、より時間をかけて取り組んでいただきたい。	・個別の指導計画などの計画や通知表等の活用や様式の見直しも含めて、多様性を踏まえたカリキュラム・マネジメントの充実を図る。具体的には、研修のニーズを把握した上で、実践的な研修を見直しをもちながら企画・実施する。
	いじめの防止に向けた本校の取り組みについて保護者の95%以上が満足している。	生徒指導	○いじめの未然防止、早期発見、事案への迅速な対応に努め、生徒や保護者が安心して学校生活を送れるよう、組織対応の実効性のための職員研修を充実し、いじめ防止指導の徹底を図る。	B	A	B	・法に基づいた組織的対応の実効性を高めることを目的に職員研修を実施。また、ホームページや学年保護者会等で、いじめ防止方針の説明に努めたが、当事者になって初めて実感するケースも見受けられた。	・外部評価の高さは、職員研修の成果や、組織的なイジメに対する初期対応が奏功していることと表れとして評価できる。生徒の日々の行動から些細なSOSを見逃さず、個々の教員による対応に留まらず、組織として確立された対応を行う必要がある。また、生徒の状況は時代と共に大きく変化している。自己評価に安住することなく、常に研鑽を重ね、更なる安心安全な学校づくりに努めていただきたい。	・色々な角度から法的根拠に基づいた組織的対応を目指して、更に共通理解を図り、保護者への周知も適宜実施し、生徒及び保護者が安心できる学校づくりに努める。	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	一人2回以上の授業参観や、研究授業を通しての授業検討、また授業研究会・研修会等を計画・実施する。	学習指導	○授業参観を年間2回、授業研究会や検討会などを含めた実践的な研修の機会を年間5回以上、教員の専門性にかかわるニーズを踏まえながら実施する。	B	B	B	・肯定的評価は約96.6%と前年度並み。年間2回以上の授業参観を、およそ全ての職員の略案ありの授業場面で行うことは一定の評価を得ているようである。また、各学年代表による授業研究会も同様といえる。	・実習先で必要とされるスキルを、学科の垣根を越えて習得できるようなカリキュラムの構築を期待する。授業内容が実生活にどのように活かされているかを確認するため、定期的な授業参観の継続実施は有益であると考え。研修のための研修に終始することなく、日頃から生徒を注意深く観察し、「何を習得できるか」という視点に焦点を当て、授業改善に取り組んでいただきたい。	・「個別の教育支援計画」などの各計画をもとにした円滑なPDCAサイクルとなるように、それぞれの教科等でよりよい授業づくりを進められるよう、各係で授業を対象とした打合せや検討会等を学習指導部主導で充実させていく。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	生徒一人一人の健康上の配慮や対応、感染症対策について保護者の95%以上が満足している。	保健保安	○日々、生徒の健康状態をきめ細かく把握し、保護者や医師、関係機関と連携した健康管理に努める。 ○要治療の生徒に対し、長期休業後の治療確認と未治療の生徒への再通知等を徹底し、治療の促進を図る。	A	A	A	・日々の生徒の健康管理については、担任と連携を取り、連絡・報告を密に取ることで対処してきた。感染症対策について、手洗い、うがい、感染拡大防止時のマスク着用など努力できた。 ・要治療の生徒について具体的な対策を取れなかった。	・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、日常生活はもちろん、行事等の活動にも大きな変化が見られます。しかしながら、健康と安全は日常生活と密接に関わるため、教職員間の情報共有に加え、家庭との連携を意識した対策を推進していただきたい。 ・あらためて健康であることの重要性を生徒のみならず、保護者にも深く理解してもらう必要がある。一般就労との関連についても理解を促すため、養護教諭だけでなく、組織全体で取り組むことが重要である。	・感染症対策については、手洗い、消毒や換気など、インフルエンザやコロナ、ノロウイルスなどのあらゆるウイルス感染症への対策は今後とも継続していく必要がある。 ・養護教諭に一任するだけでなく、生徒の健康に関しては、教職員間でのきめ細やかな情報交換を行う。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	火災や地震など、緊急時の対応や避難経路について生徒の90%以上が理解している。		○火災や地震など、様々な災害を想定した避難訓練(避難経路の確認等)を実践するとともに、学校と保護者が連携した危機管理体制の構築を図り、安全・安心な学校づくりに努める。	B	B	B	・火災や地震に対する避難訓練において、消防署や防災業者と連携した実践的な訓練を実施し、緊急時の対応が概ね理解できているとの評価である。 ・荒天時を想定した避難訓練も計画する。	・近年の日本における環境状況を鑑みると、災害に対する安全管理の重要性は一層高まっている。天候を含め、想定外の事態が発生することは必然とも言える。様々な場面を想定し、より実践的な避難訓練を実施する必要がある。予告なしの避難訓練は非常に有効であると考え、継続して実施するとともに、マニュアルについても常に最新の情報に更新していくことが重要である。	・生徒及び職員の安全確保に向け、より実践的な訓練の実施に努めていきたい。 ・不審者対応訓練が未実施のため、来年度に向け実施を検討している。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	「生徒が自らの成長に向けて努力している」と保護者・教職員の80%以上が答えている。	進路指導	○キャリアパスポートを活用し、生徒がなりたい自分の姿に向けて日々成長していることを実感できるよう指導する。 ○面談等において、保護者と情報を共有する。	B	B	B	・努力する姿が見えにくかったり、成果が見える形で表れていなかったりするため、評価が低かったと思われる。職員はキャリアパスポートの内容や活用の仕方に課題が多いと感じている。	・キャリアパスポートは、小・中・高を通じた一貫性のある教育を目指す上で、有効なツールであると考え。小・中学校との連携を強化し、保護者にもその有益性を十分に理解してもらうことで、生徒の成長過程が明確になり、将来に向けた指導に繋がるものと期待している。一方で、限られた時間の中で、生徒と教職員の負担を軽減しながら、キャリアパスポートを有用なものとするための対策を検討する必要があると考える。	・キャリアパスポートの活用の仕方や内容について今年度進路指導部で検討したものを実行し、職員間で共通理解を図るとともに、保護者に生徒のがんばりを積極的に伝えるようにする。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	保護者・関係機関を招いた情報提供の場を年間5回以上開催し、保護者・関係機関の90%以上が満足している。		○保護者会、企業採用担当者学校見学会、福祉サービス事業所との情報交換会等の内容を見直し、より有効な情報提供ができるようにする。	A	A	A	・昨年度と違う企業や福祉サービスをお招きし、直接保護者に向けて説明していただいたことが保護者の満足度につながったと思われる。	・より多くの生徒に企業実習等の機会を提供し、成長を促していただきたい。進路を検討する上で、企業から社会人として必要なスキルを学ぶことは非常に有益である。多くの保護者は、卒業後の就労や社会生活に不安を感じていると思う。そのような状況において、企業から直接保護者へ説明する機会を設けることは、保護者にとっても非常に有益であり、優れた取り組みである。保護者の満足度に繋がっていると考え。	・各担任から保護者に行事参加を勧めるような働きかけをしたり、行事に参加していただく関係機関の地域・職種等が偏らないようにしたりする工夫を継続していく。